

学校だより

令和6年 10月

戸山

新宿区立戸山小学校



まなびの教室

まなびの教室主任

走るの速いけれど、球技は苦手。漢字は得意だけれど、算数は苦手。聞いて覚えるよりも見て覚えるほうが得意など、一人ずつ得意なところ、苦手なところが違います。

できないと思っていることでも、学び方をちょっと工夫してあげればできることもあります。

まなびの教室は、一人一人がもっている力を伸ばすためにそれぞれに合った学び方で勉強する教室です。自分のよさに気づき、元気に学校生活を送れるようにまなびの教室では児童を指導・支援しています。

校内での審議、区での審査を経て、利用が認められれば、原則1年間利用できます。本人、保護者、学校の教職員が相談して目標を決め、連携して学習活動を進めながら、目標達成を目指していきます。

女神湖 移動教室を終えて

5年生担任

9月4・5・6日の3日間、女神湖移動教室に行ってきました。

1日目の体験活動は、立岩和紙の里でのうちわ作りでした。職人さんの説明をよく聞き、素敵のうちわを完成させました。夕食後のキャンプファイヤーは、係を中心に歌やゲームで大盛り上がりしました。

2日目は、八島湿原と車山高原のハイキングから始まりました。全員最後まで歩ききり、リフトで周囲の景色を楽しみながら下山しました。午後は鷹山ファミリー牧場に行き、乳しぼりと魚つかみ、トラクター体験をしました。ただ楽しむだけでなく、命の大切さや食のありがたみなどを学ぶ時間となりました。夕食後は、学年で広い体育館で遊びました。

3日目は、佐久パラダでキーホルダー作りやアスレチック遊びをして、予定より早めに帰校しました。

3日間を振り返り、自然の景色や動物に感動する様子、友達と協力をして生活する様子、よい移動教室にしようと行動を改める様子など、5年生の素敵な姿がたくさん見られました。今後の生活にもつながるように、指導してまいります。

保護者の皆様には朝早くからのお弁当や準備、見送り、お出迎え等、移動教室を支えていただきました。ありがとうございました。

良好な人間関係づくりのすゝめ

副校長 諏訪部 浩志

先日の個人面談実施にあたり、保護者の皆様にはご協力いただき有難うございました。面談において情報共有できましたことを今後の教育活動に活かしてまいります。10月には学校公開を予定しています。多くの方の参観をお待ちしております。

学校は集団生活の場です。周りの人たちと良好な関係を築いていく能力が必要となってきます。では、『良好な人間関係』とはいったい……？

多くの友達がいるとか、誰とでも仲良くすることだけが良好な関係とは言えません。少数の友人と深く関わることを好む人もいれば、広く浅く大勢の人と関わりたい人もいます。様々な場面で求められる人間関係をストレスの少ない形で築いていくことができればいいのです。良好な人間関係とは『自分に合った“無理のない”人との関わり』と定義できそうです。

その時に基盤となるのが、嬉しい、怒っている、悲しい、楽しいなど、自分の気持ちを素直に表現できる力、そして相手の思いを受け止める力です。また、相手の誘いや依頼を断れること、誰かに甘えたり、何かを頼んだりしたときに、相手から「NO」と言われても平気でいられることも大切です。人は誰も相手からのネガティブな反応は嬉しくありません。しかし、多少ネガティブなやり取りがあったとしても、根幹の部分で相手との信頼関係が崩れなければいいのです。必要以上にうろたえたり悲しんだりしない心も必要です。

そうした心の強さを支えているのは「自己肯定感」です。「ありのままの自分」で周囲に受け入れられているという安心感をもっていることが重要です。子供は、親や周りの大人から優しくされ、肯定的に受け入れられる体験を通して、安心感、満足感、心の平静を獲得していくのだと思います。

「学校は子供たちにとって、安心して活動できる場、居心地の良い場であってほしい」、これは、本校教職員の共通した願いです。今後もより一層、子供たちに安心・安全に気を配り、魅力ある戸山小実現のために尽力してまいります。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。